

clear cable-diagnostics tdr

Time Domain Reflectometer (TDR; タイム ドメイン リフレクトメータ) をサポートする特定のインターフェイスまたはすべてのインターフェイスをクリアするには、**clear cable-diagnostics tdr** コマンドを使用します。

clear cable-diagnostics tdr [*interface interface interface-number*]

シンタックスの説明

interface interface (任意) インターフェイス タイプを指定します。有効値は **fastethernet**、**gigabitethernet**、および **tengigabitethernet** です。

interface-number モジュールおよびポート番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

TDR をサポートするモジュールの一覧については、『*Release Notes for Cisco IOS Release 12.2 SX on the Catalyst 6500*』を参照してください。

例

次に、特定のインターフェイスをクリアする例を示します。

```
Router# clear cable-diagnostics tdr interface gigabitethernet 4/1
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cable-diagnostics tdr	TDR ケーブル診断のテスト結果を表示します。
test cable-diagnostics	48 ポート 10/100/1000 BASE-T モジュール上の 10 ギガビットイーサネット リンクまたは銅ケーブルの状態をテストします。

clear catalyst6000 traffic-meter

トラフィック メーターのカウンタをクリアするには、**clear catalyst6000 traffic-meter** コマンドを使用します。

clear catalyst6000 traffic-meter

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、トラフィック メーターのカウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear catalyst6000 traffic-meter  
Router#
```

clear counters

インターフェイス カウンタをクリアするには、**clear counters** コマンドを使用します。

```
clear counters [{interface interface-number} | {null interface-number} | {port-channel number} | {vlan vlan-id}]
```

シンタックスの説明

<i>interface</i>	(任意) インターフェイス タイプ。有効値は ethernet 、 fastethernet 、 gigabitethernet 、および tengigabitethernet です。その他の有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>interface-number</i>	(任意) モジュールおよびポート番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
null interface-number	(任意) ヌル インターフェイスを指定します。有効値は 0 です。
port-channel number	(任意) チャンネル インターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 256 の範囲の最大 64 個の値です。
vlan vlan-id	(任意) VLAN ID を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスが指定されていない場合、このコマンドはインターフェイスから現在のすべてのインターフェイス カウンタをクリアします。



(注)

このコマンドは、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) で検索されたカウンタはクリアせず、**show queuing interface** コマンドを入力したときに表示されるカウンタだけをクリアします。

interface-number 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。*interface-number* の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

例

次に、すべてのインターフェイス カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear counters  
Clear "show interface" counters on all interfaces [confirm]y  
Router#
```

次に、特定のインターフェイスのカウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear counters vlan 200  
Clear "show interface" counters on this interface [confirm]y  
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show queuing interface	キューイング情報を表示します。

clear fm netflow counters

NetFlow カウンタをクリアするには、**clear fm netflow counters** コマンドを使用します。

clear fm netflow counters

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、NetFlow カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear fm netflow counters
Router#
```

clear interface gigabitethernet

ギガビット イーサネット IEEE 802.3z インターフェイスのハードウェア ロジックをクリアするには、**clear interface gigabitethernet** コマンドを使用します。

clear interface gigabitethernet *number*

シンタックスの説明

<i>number</i>	ギガビット イーサネット インターフェイス番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
---------------	---

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

number 引数は、モジュールおよびポート番号を指定します。*number* の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

例

次に、ギガビット イーサネット IEEE 802.3z インターフェイスのハードウェア ロジックをクリアする例を示します。

```
Router# clear interface gigabitethernet 5
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interfaces status	インターフェイス ステータスを表示したり、LAN ポートで errdisable ステートにあるインターフェイスだけのリストを表示したりします。

clear interface vlan

VLAN のハードウェア ロジックをクリアするには、**clear interface vlan** コマンドを使用します。

clear interface vlan *vlan-id*

シンタックスの説明 *vlan-id* VLAN ID。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、特定の VLAN のハードウェア ロジックをクリアする例を示します。

```
Router# clear interface vlan 5
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interfaces status	インターフェイス ステータスを表示したり、LAN ポートで errdisable ステートにあるインターフェイスだけのリストを表示したりします。

clear ip access-template

アクセス リストの統計情報をクリアするには、**clear ip access-template** コマンドを使用します。

clear ip access-template *access-list*

シンタックスの説明	<i>access-list</i>	アクセス リスト番号。有効値は IP 拡張アクセス リストについては 100 ~ 199、拡張範囲 IP 拡張アクセス リストについては、2000 ~ 2699 です。
-----------	--------------------	--

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、アクセス リストの統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip access-template 201
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show mls netflow	NetFlow ハードウェアに関する設定情報を表示します。

clear ip arp inspection log

ログ バッファのステータスをクリアするには、**clear ip arp inspection log** コマンドを使用します。

clear ip arp inspection log

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、ログ バッファのカウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip arp inspection log
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	arp access-list	ARP インспекションおよび QoS フィルタリング用の ARP ACL を設定し、ARP ACL コンフィギュレーション サブモードを開始します。
	show ip arp inspection log	ログ バッファのステータスを表示します。

clear ip arp inspection statistics

Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) の統計情報をクリアするには、**clear ip arp inspection statistics** コマンドを使用します。

clear ip arp inspection statistics [vlan *vlan-range*]

シンタックスの説明

vlan *vlan-range* (任意) VLAN 範囲を指定します。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、VLAN 1 から DAI 統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip arp inspection statistics vlan 1
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
arp access-list	ARP インスペクションおよび QoS フィルタリング用の ARP ACL を設定し、ARP ACL コンフィギュレーション サブモードを開始します。
clear ip arp inspection log	ログ バッファのステータスをクリアします。
show ip arp inspection log	ログ バッファのステータスを表示します。

clear ip auth-proxy watch-list

1 つのウォッチ リスト エントリまたはすべてのウォッチ リスト エントリを削除するには、**clear ip auth-proxy watch-list** コマンドを使用します。

```
clear ip auth-proxy watch-list {ip-addr | *}
```

シンタックスの説明

<i>ip-addr</i>	ウォッチ リストから削除される IP アドレス
*	ウォッチ リストのすべてのウォッチ リスト エントリ

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

ウォッチ リストに有効ではないと考えられるエントリが表示される場合は、ウォッチ リストが期限切れになるのを待機するのではなく、**clear ip auth-proxy watch-list** コマンドを入力して、エントリを手動でクリアできます。

例

次に、1 つのウォッチ リスト エントリを削除する例を示します。

```
Router# clear ip auth-proxy watch-list 12.0.0.2
Router#
```

次に、すべてのウォッチ リスト エントリを削除する例を示します。

```
Router# clear ip auth-proxy watch-list *
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip auth-proxy	ファイアウォール インターフェイスおよび QoS フィルタリングにおけるログイン試行回数を制限し、ARP ACL コンフィギュレーション サブモードを開始します。
max-login-attempts	
ip auth-proxy watch-list	認証プロキシ ウォッチ リストをイネーブルにして設定します。
show ip auth-proxy watch-list	認証プロキシ ウォッチ リストに関する情報を表示します。

clear ip cef epoch full

新しいエポックを開始し、すべてのテーブル（隣接テーブルを含む）のエポック番号を増分するには、**clear ip cef epoch full** コマンドを使用します。

clear ip cef epoch full

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン テーブルを再構築する場合に、**clear ip cef epoch full** コマンドを使用します。このコマンドでは、同一のデータ構造内で以前のテーブル エントリと新しいテーブル エントリを区別することができ、新しいテーブルを構築しても以前の CEF データベースを維持できます。

次の **show** コマンドはエポック情報を表示します。

- **show ip cef summary** : 特定の Forwarding Information Base (FIB; 転送情報ベース) テーブルのテーブル エポックを表示します。
- **show ip cef detail** : 特定の FIB テーブルの各エントリのエポック値を表示します。
- **show adjacency summary** : 隣接テーブルのエポックを表示します。
- **show adjacency detail** : 隣接テーブルの各エントリのエポック値を表示します。

例 次に、エポック テーブルをクリアし、エポック番号を増分する前後の出力例を示します。

```
Router# show ip cef epoch
CEF epoch information:

Table:Default-table
  Table epoch:2 (164 entries at this epoch)

Adjacency table
  Table epoch:1 (33 entries at this epoch)
```

```
Router# clear ip cef epoch full
Router# show ip cef epoch
CEF epoch information:

Table:Default-table
  Table epoch:3 (164 entries at this epoch)

Adjacency table
  Table epoch:2 (33 entries at this epoch)
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show adjacency detail	プロトコルの詳細およびタイマーに関する情報を表示します。
show adjacency summary	CEF 隣接情報のサマリーを表示します。
show ip cef detail	詳細 FIB エントリ情報を表示します。
show ip cef epoch	隣接テーブルおよびすべての FIB テーブルのエポック情報を表示します。
show ip cef summary	FIB の概要を表示します。

clear ip cef inconsistency

CEF 一貫性チェッカーの統計情報および記録情報をクリアするには、**clear ip cef inconsistency** コマンドを使用します。

clear ip cef inconsistency

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、**ip cef table consistency-check** コマンドをイネーブルにしたときに集めた統計情報および記録情報をクリアします。

例 次に、CEF 一貫性チェッカーが検出した統計情報および記録情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip cef inconsistency
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip cef table consistency-check	CEF テーブル一貫性チェッカーのタイプおよびパラメータをイネーブルにします。

clear ip dhcp snooping

DHCP スヌーピングをディセーブルにせずに、DHCP スヌーピング テーブルをクリアするには、**clear ip dhcp snooping** コマンドを使用します。

clear ip dhcp snooping {binding | database | statistics}

シンタックスの説明

binding	DHCP スヌーピングをディセーブルにせずに、DHCP スヌーピング バインディング エントリ テーブルをクリアします。
database	DHCP スヌーピングをディセーブルにせずに、DHCP スヌーピング データベース テーブルをクリアします。
statistics	DHCP スヌーピングをディセーブルにせずに、DHCP スヌーピング統計テーブルをクリアします。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、DHCP スヌーピング バインディング エントリ テーブルをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip dhcp snooping binding
Router#
```

次に、DHCP スヌーピング データベース テーブルをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip dhcp snooping database
Router#
```

次に、DHCP スヌーピング統計をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip dhcp snooping statistics
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピングの設定を表示します。
show ip dhcp snooping binding	DHCP スヌーピングのバインディング エントリを表示します。
show ip dhcp snooping database	DHCP スヌーピング データベース エージェントのステータスを表示します。

clear ip flow stats

NetFlow スイッチングの統計情報をクリアするには、**clear ip flow stats** コマンドを使用します。

clear ip flow stats

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン **show ip cache flow** コマンドは、NetFlow スイッチングの統計情報を表示します。

例 次に、NetFlow スイッチングの統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip flow stats
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ip cache flow	NetFlow キャッシュ フロー エントリのサマリーを表示します。

clear ip igmp group

IGMP グループ キャッシュのエントリを削除するには、**clear ip igmp group** コマンドを使用します。

```
clear ip igmp [vrf vrf-name] group [{interface interface-number} | {group-name |
group-address} {loopback interface-number} | {null interface-number} |
{port-channel number} | {vlan vlan-id}]
```

シンタックスの説明

vrf vrf-name	(任意) マルチキャスト VPN Routing/Forwarding (VRF; VPN ルーティング/転送) インスタンスに割り当てられている名前を指定します。
interface	(任意) インターフェイス タイプ。有効値は ethernet 、 fastethernet 、 gigabitethernet 、および tengigabitethernet です。
interface-number	(任意) モジュールおよびポート番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
group-name	(任意) Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) ホスト テーブルまたは ip host コマンドで定義されているグループ名
group-address	(任意) 4 分割ドット表記によるマルチキャスト グループのアドレス
loopback interface-number	(任意) ループバック インターフェイスを指定します。有効値は 0 ~ 2,147,483,647 です。
null interface-number	(任意) ヌル インターフェイスを指定します。有効値は 0 です。
port-channel number	(任意) チャンネル インターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 256 の範囲の最大 64 個の値です。
vlan vlan-id	(任意) VLAN ID を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

IGMP キャッシュには、直接接続されている LAN 上のホストのリストが含まれます。スイッチがグループに加入すると、このグループもキャッシュに表示されます。

IGMP キャッシュからすべてのエントリを削除する場合は、引数なしで **clear ip igmp group** コマンドを入力します。

interface-number 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。**interface-number** の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

■ clear ip igmp group

例 次に、IGMP キャッシュから特定のグループのエントリをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip igmp group 224.0.255.1
Router#
```

次に、IGMP グループ キャッシュの特定のインターフェイスから、IGMP グループ キャッシュ エントリをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip igmp group gigabitethernet 2/2
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip host	スタティック ホスト名とアドレスのマッピングをホスト キャッシュで定義します。
show ip igmp groups	ルータに直接接続され、IGMP によって学習されたレシーバーを含むマルチキャスト グループを表示します。
show ip igmp interface	IGMP インターフェイス ステータスおよび設定に関する情報を表示します。

clear ip igmp snooping statistics

IGMP スヌーピングの統計情報をクリアするには、**clear ip igmp snooping statistics** コマンドを使用します。

clear ip igmp snooping statistics [vlan *vlan-id*]

シンタックスの説明

vlan *vlan-id* (任意) VLAN ID を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

VLAN を指定しない場合、すべての VLAN の IGMP スヌーピング統計情報がクリアされます。

例

次に、すべての VLAN の IGMP スヌーピング統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip igmp snooping statistics
Router#
```

次に、特定の VLAN の IGMP スヌーピング統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip igmp snooping statistics vlan 300
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip igmp snooping statistics	IGMPv3 統計に関する情報を表示します。

clear ip mroute

IP マルチキャスト ルーティング テーブルからエントリを削除するには、**clear ip mroute** コマンドを使用します。

clear ip mroute [*vrf vrf-name*] { * | *group* } [*source*]

シンタックスの説明

vrf vrf-name	(任意) マルチキャスト VPN ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに割り当てられている名前を指定します。
*	IP マルチキャスト ルーティング テーブルからすべてのエントリを削除します。
<i>group</i>	マルチキャスト グループの名前または IP アドレス。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>source</i>	(任意) グループに送信するマルチキャスト送信元の名前またはアドレス。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

group 引数は、次のいずれかを指定します。

- DNS ホスト テーブルまたは **ip host** コマンドで定義されるマルチキャスト グループ名
- 4 分割ドット表記によるマルチキャスト グループの IP アドレス

group の名前またはアドレスを指定する場合、*source* 引数を入力して、グループに送信するマルチキャスト送信元の名前またはアドレスも指定できます。送信元は、グループのメンバーである必要はありません。

例

次に、IP マルチキャスト ルーティング テーブルからすべてのエントリを削除する例を示します。

```
Router# clear ip mroute *
Router#
```

次に、マルチキャスト グループ 224.2.205.42 に送信する 228.3.0.0 サブネット上のすべての送信元を IP マルチキャスト ルーティング テーブルから削除する例を示します。この例では、ネットワーク 228.3 上の個別の送信元ではなく、すべての送信元が削除されます。

```
Router# clear ip mroute 224.2.205.42 228.3.0.0
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ip host</code>	スタティック ホスト名とアドレスのマッピングをホスト キャッシュで定義します。
<code>show ip mroute</code>	IP マルチキャスト ルーティング テーブルに関する情報を表示します。

clear ip msdp peer

指定された MSDP ピアへの TCP 接続をクリアするには、**clear ip msdp peer** コマンドを使用します。

```
clear ip msdp [vrf vrf-name] peer {peer-address | peer-name}
```

シンタックスの説明	vrf vrf-name	(任意) マルチキャスト VPN ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに割り当てられている名前を指定します。
	peer-address peer-name	TCP 接続がクリアされる MSDP ピアの IP アドレスまたは名前

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドによりピアへの TCP 接続はクローズされ、すべての MSDP ピアの統計情報はリセットされ、MSDP ピアでの入力/出力キューはクリアされます。

例 次に、224.15.9.8 の MSDP ピアへの TCP 接続をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip msdp peer 224.15.9.8  
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip msdp peer	MSDP ピアを設定します。

clear ip msdp sa-cache

MSDP 送信元のアクティブ キャッシュ エントリをクリアするには、**clear ip msdp sa-cache** コマンドを使用します。

clear ip msdp [vrf vrf-name] sa-cache [group-address | group-name]

シンタックスの説明

vrf vrf-name	(任意) マルチキャスト VPN ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに割り当てられている名前を指定します。
group-address group-name	(任意) source-active エントリが source-active キャッシュからクリアされるマルチキャスト グループのアドレスまたは名前

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

キャッシュ内にクリアする任意の source-active エントリを含めるには、**ip msdp cache-sa-state** コマンドを入力して、source-active キャッシングをイネーブルにする必要があります。

グループのアドレスまたは名前によりマルチキャスト グループが識別されない場合、すべての source-active キャッシュ エントリがクリアされます。

例

次に、キャッシュからマルチキャスト グループ 224.5.6.7 の source-active エントリをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip msdp sa-cache 224.5.6.7
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip msdp peer	MSDP ピアを設定します。
ip msdp cache-sa-state	ルータに source-active ステートを作成します。
show ip msdp sa-cache	MSDP ピアから学習した (S,G) 状態を表示します。

clear ip msdp statistics

セッションをリセットせずに、1 つまたはすべての MSDP ピアの統計情報カウンタをクリアするには、**clear ip msdp statistics** コマンドを使用します。

```
clear ip msdp [vrf vrf-name] statistics [peer-address | peer-name]
```

シンタックスの説明

vrf vrf-name	(任意) マルチキャスト VPN ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに割り当てられている名前を指定します。
peer-address peer-name	(任意) 統計情報カウンタ、リセットカウント、および入力/出力カウンタがクリアされる MSDP ピアのアドレスまたは名前

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、sanjose という名前のピアのカウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear ip msdp statistics sanjose  
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip msdp sa-cache	MSDP ピアから学習した (S,G) 状態を表示します。

clear ip pim auto-rp

Auto-RP キャッシュからエントリを削除するには、**clear ip pim auto-rp** コマンドを使用します。

```
clear ip pim [vrf vrf-name] auto-rp rp-address
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	vrf vrf-name	(任意) マルチキャスト VPN ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに割り当てられている名前を指定します。
	rp-address	Rendezvous Point (RP; ランデブー ポイント) アドレス。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン *rp-address* 引数を入力すると、このアドレスのランデブー ポイントに関連するエントリだけがクリアされます。この引数を省略する場合、Auto-RP キャッシュ全体がクリアされます。

例 次に、Auto-RP キャッシュからすべてのエントリを削除する例を示します。

```
Router# clear ip pim auto-rp 224.5.6.7
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ip pim rp mapping	PIM グループとアクティブ ランデブー ポイント のマッピングを表示します。

clear ip pim snooping statistics

IP PIM スヌーピングのグローバルな統計情報を削除するには、**clear ip pim snooping statistics** コマンドを使用します。

clear ip pim snooping statistics

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、IP PIM 統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip pim snooping statistics
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip pim snooping (global configuration mode)	PIM スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
	show ip pim snooping statistics	IP PIM スヌーピングに関する統計情報を表示します。

clear ip pim snooping vlan

特定の VLAN 上の IP PIM スヌーピング エントリを削除するには、**clear ip pim snooping vlan** コマンドを使用します。

clear ip pim snooping vlan *vlan-id* mac-address *gda-address*

**clear ip pim snooping vlan *vlan-id* mroute {* | {*group-addr* *src-addr*}
{*downstream-neighbor ip-addr*} | {*upstream-neighbor ip-addr*}}}**

clear ip pim snooping vlan *vlan-id* neighbor {* | *ip-addr*}

シンタックスの説明

<i>vlan-id</i>	VLAN ID。有効値は 1 ~ 4094 です。
mac-address <i>gda-address</i>	削除するマルチキャスト グループの MAC アドレスを指定します。
mroute *	すべてのマルチキャスト ルート エントリを削除します。
mroute <i>group-addr</i> <i>src-addr</i>	指定したグループおよび送信元 IP アドレスのマルチキャスト ルート エントリを削除します。
downstream-neighbor <i>ip-addr</i>	join/prune メッセージを発信する特定のダウンストリーム ネイバのエントリを削除します。
upstream-neighbor <i>ip-addr</i>	join/prune メッセージを受信する特定のアップストリーム ネイバのエントリを削除します。
neighbor *	すべてのネイバを削除します。
neighbor <i>ip-addr</i>	特定の IP アドレスのネイバを削除します。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、特定の VLAN 上の IP PIM 統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear ip pim snooping vlan 25 statistics
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip pim snooping (interface configuration mode)	特定のインターフェイスで PIM スヌーピングをイネーブルにします。
show ip pim snooping	IP PIM スヌーピングに関する情報を表示します。

clear lacp counters

特定のチャンネル グループに属するすべてのインターフェイスの統計情報をクリアするには、**clear lacp counters** コマンドを使用します。

clear lacp [*channel-group*] **counters**

シンタックスの説明 *channel-group* (任意) チャンネル グループ番号。有効値は 1 ~ 256 です。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン *channel-group* を指定しない場合は、すべてのチャンネル グループがクリアされます。
PAgP モードのメンバーを含むチャンネル グループに対してこのコマンドを入力する場合、このコマンドは無視されます。

例 次に、特定のグループの統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear lacp 1 counters  
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show lacp	LACP 情報を表示します。

clear logging ip access-list cache

OAL キャッシュからすべてのエントリをクリアして、Syslog に送信するには、**clear logging ip access-list cache** コマンドを使用します。

clear logging ip access-list cache

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、OAL キャッシュからすべてのエントリをクリアして、Syslog に送信する例を示します。

```
Router# clear logging ip access-list cache
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging ip access-list cache (global configuration mode)	OAL パラメータをグローバルに設定します。
	logging ip access-list cache (interface configuration mode)	方向に基づいてインターフェイス上で OAL ロギング キャッシュをイネーブルにします。
	show logging ip access-list	ロギング IP アクセス リストに関する情報を表示します。

clear mac-address-table dynamic

ダイナミック アドレス エントリをレイヤ 2 の MAC アドレス テーブルから削除するには、**clear mac-address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
clear mac-address-table dynamic [{address mac-addr} | {interface interface
interface-number}] [{protocol {assigned | ip | ipx | other}}] [vlan vlan-id]
```

シンタックスの説明

address mac-addr	(任意) MAC アドレスを指定します。
interface interface	(任意) インターフェイス タイプを指定します。有効値は ethernet 、 fastethernet 、 gigabithernet 、および tengigabithernet です。その他の有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
interface-number	(任意) モジュールおよびポート番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
protocol assigned	(任意) DECnet、Banyan VINES、および AppleTalk などの割り当てられたプロトコルのバケット アカウントを指定します。
protocol ip ipx	(任意) クリアするエントリのプロトコル タイプを指定します。
protocol other	(任意) クリアするエントリのプロトコル タイプ (IP または IPX 以外) を指定します。
vlan vlan-id	(任意) VLAN ID を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

すべてのダイナミック エントリをテーブルから削除するには、引数なしで **clear mac-address-table dynamic** コマンドを入力します。

interface-number 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。**interface-number** の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロットシャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

例

次に、特定のインターフェイス (e2/1) およびプロトコル タイプ (IPX) のすべてのダイナミック レイヤ 2 エントリをクリアする例を示します。

```
Router# clear mac-address-table dynamic interface e2/1 protocol ipx
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
mac-address-table aging-time	レイヤ 2 テーブルでエントリのエージング タイムを設定します。
mac-address-table static	スタティック エントリを MAC アドレス テーブルに追加するか、IGMP スヌーピングをアドレスに対してディセーブルにしてスタティック MAC アドレスを設定します。
show mac-address-table	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。

clear mls acl counters

Multilayer Switching (MLS; マルチレイヤ スイッチング) ACL カウンタをクリアするには、**clear mls acl counters** コマンドを使用します。

```
clear mls acl counters {all | {interface interface interface-number} [{loopback
interface-number} | {null interface-number} | {port-channel number} | {vlan
vlan-id}]}
```

シンタックスの説明

all	すべてのインターフェイスの MLS ACL カウンタをすべてクリアします。
interface interface	指定したインターフェイスに関連付けられたカウンタをクリアします。有効値は ethernet 、 fastethernet 、 gigabitethernet 、および tengigabitethernet です。その他の有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
interface-number	モジュールおよびポート番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
loopback interface-number	(任意) ループバック インターフェイスを指定します。有効値は 0 ~ 2,147,483,647 です。
null interface-number	(任意) nul インターフェイスを指定します。有効値は 0 です。
port-channel number	(任意) チャネル インターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 256 の範囲の最大 64 個の値です。
vlan vlan-id	(任意) VLAN ID を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

clear mls acl counters all を入力すると、すべてのモジュールおよびスーパーバイザ エンジンの全 MLS ACL カウンタがクリアされます。

interface-number 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。**interface-number** の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

例

次に、すべてのインターフェイスで MLS ACL カウンタをリセットする例を示します。

```
Router# clear mls acl counters all
```

Router#

関連コマンド

コマンド	説明
show tcam interface	インターフェイスベースの TCAM に関する情報を表示します。

clear mls cef ip accounting per-prefix

プレフィクス単位の IP アカウンティング統計に関する情報をクリアするには、**clear mls cef ip accounting per-prefix** コマンドを使用します。

clear mls cef ip accounting per-prefix {all | {*prefix mask* [*instance*]}}

シンタックスの説明

all	プレフィクス単位のアカウント統計情報をすべてクリアします。
<i>prefix</i>	A.B.C.D のフォーマットでのエントリのプレフィクス
<i>mask</i>	エントリのプレフィクス マスク
<i>instance</i>	(任意) VPN ルーティング/転送インスタンス名

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、プレフィクス単位のアカウント統計に関する情報をすべてクリアする例を示します。

```
Router# clear mls cef ip accounting per-prefix all  
Router#
```

clear mls cef ipv6 accounting per-prefix

プレフィクス単位の IPv6 アカウンティング統計に関する情報をクリアするには、**clear mls cef ipv6 accounting per-prefix** コマンドを使用します。

clear mls cef ipv6 accounting per-prefix {all | {*ipv6-address/mask* [*instance*]}}

シンタックスの説明

all	プレフィクス単位のアカウンティング統計情報をすべてクリアします。
<i>ipv6-address</i>	エントリの IPv6 アドレス。フォーマットの詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>mask</i>	エントリのプレフィクス マスク
<i>instance</i>	(任意) VPN ルーティング/転送インスタンス名

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

ipv6-address/mask 引数を入力する場合、フォーマット *X:X:X:X::X/mask* を使用します。*mask* の有効値は 0 ~ 128 です。

例

次に、プレフィクス単位のアカウンティング統計に関する情報をすべてクリアする例を示します。

```
Router# clear mls cef ipv6 accounting per-prefix all
Router#
```

clear mls ip multicast bidir-rpcache

Bidirectional (Bidir; 双方向) ランデブー ポイントのキャッシュ エントリをすべてクリアするには、**clear mls ip multicast bidir-rpcache** コマンドを使用します。

clear mls ip multicast bidir-rpcache

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、Bidir カウンタをリセットする例を示します。

```
Router# clear mls ip multicast bidir-rpcache  
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show mls ip multicast bidir	Bidir ハードウェアでスイッチングされるエントリを表示します。

clear mls ip multicast group

IP マルチキャスト グループを削除するには、**clear mls ip multicast group** コマンドを使用します。

clear mls ip multicast group {*ip-name* | *group-address*}

シンタックスの説明

<i>ip-name</i>	ホストの IP 名
<i>group-address</i>	(任意) 4 分割ドット表記によるマルチキャストグループのアドレス

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、IP マルチキャスト グループを削除する例を示します。

```
Router# clear mls ip multicast group 224.0.255.1  
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mls ip multicast group	特定のマルチキャストグループアドレスのエントリを表示します。

clear mls ip multicast statistics

IP マルチキャスト統計情報のカウンタをリセットするには、**clear mls ip multicast statistics** コマンドを使用します。

clear mls ip multicast statistics

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、IP マルチキャスト統計情報のカウンタをリセットする例を示します。

```
Router# clear mls ip multicast statistics
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show mls ip multicast	MLS IP 情報を表示します。

clear mls nde flow counters

NetFlow Data Export (NDE; NetFlow データ エクスポート) カウンタをクリアするには、**clear mls nde flow counters** コマンドを使用します。

clear mls nde flow counters

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、NDE カウンタをリセットする例を示します。

```
Router# clear mls nde flow counters
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show mls nde	NDE ハードウェアによってスイッチングされるフローに関する情報を表示します。

clear mls netflow

MLS NetFlow のショートカット エントリをクリアするには、**clear mls netflow** コマンドを使用します。

```
clear mls netflow ip [destination ip-addr [source ip-addr-spec]] [dynamic | {sw-installed
[non-static | static]}] [module mod]
```

```
clear mls netflow ipv6 [destination ipv6-addr[/ipv6-prefix] [source
ipv6-addr[/ipv6-prefix]]] [flow {tcp | udp}] [{destination | source} port-num]
[dynamic | {sw-installed [non-static | static]}] [module mod]
```

```
clear mls netflow mpls [top-label entry] [dynamic | {sw-installed [non-static | static]}]
[module mod]
```

```
clear mls ipx [[module mod] [destination ipx-network [ipx-node]] [source ipx-network]
[macs mac-addr] [macd mac-addr] [interface interface-num] | [all]]
```

シンタックスの説明

ip	IP MLS エントリをクリアします。
destination <i>ip-addr</i>	(任意) 宛先のフル IP アドレスまたはサブネット アドレスを指定します。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
source <i>ip-addr-spec</i>	(任意) 送信元のフル IP アドレスまたはサブネット アドレスを指定します。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
dynamic	(任意) ハードウェアで作成された NetFlow 統計情報エントリをクリアします。
sw-installed non-static	(任意) ソフトウェアがインストールされた非スタティック エントリをクリアします。
sw-installed static	(任意) ソフトウェアがインストールされたスタティック エントリをクリアします。
module <i>mod</i>	(任意) モジュール番号を指定します。
ipv6	ソフトウェアがインストールされた IPv6 エントリをクリアします。
destination <i>ipv6-addr</i>	(任意) 宛先のフル IPv6 アドレスまたはサブネット アドレスを指定します。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>/ipv6-prefix</i>	(任意) IPv6 プレフィクス。有効値は 0 ~ 128 です。
source <i>iv6p-addr</i>	(任意) 送信元のフル IPv6 アドレスまたはサブネット アドレスを指定します。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
flow tcp	(任意) TCP のフロー情報をクリアします。
flow udp	(任意) UDP のフロー情報をクリアします。
destination <i>port-num</i>	(任意) 宛先ポート番号を指定します。
source <i>port-num</i>	(任意) 送信元ポート番号を指定します。
mpls	ソフトウェアがインストールされた MPLS エントリをクリアします。
top-label <i>entry</i>	(任意) top-label エントリをクリアします。有効値は 1 ~ 4,294,967,295 です。
ipx	IPX MLS エントリをクリアします。

destination <i>ipx-network</i>	(任意) 宛先 IPX アドレスを指定します。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>ipx-node</i>	(任意) IPX ノードアドレス。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
source <i>ipx-network</i>	(任意) 送信元 IPX アドレスを指定します。フォーマットの注意事項については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
macs <i>mac-addr</i>	(任意) 削除するエントリを検索するのに使用する送信元の MAC アドレスを指定します。
macd <i>mac-addr</i>	(任意) 削除するエントリを検索するのに使用する宛先の MAC アドレスを指定します。
interface <i>interface-num</i>	(任意) 指定した VLAN またはインターフェイスに関連付けられるエントリをクリアします。
all	(任意) すべてのエントリをクリアします。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

IPX アドレス構文を入力するときは、次のフォーマットを使用します。

- IPX ネットワーク アドレス : 1 ~ FFFFFFFE
- IPX ノードアドレス : x.x.x (x は 0 ~ FFFF)
- IPX アドレス : ipx_net.ipx_node (たとえば、3.0034.1245.AB45、A43.0000.0000.0001)

入力パラメータの組み合わせを入力することにより、クリアするエントリの検索を絞り込むことができます。**destination** または **source port-num** のキーワードおよび引数には、telnet、File Transfer Protocol (FTP; ファイル転送プロトコル)、WWW、SMTP、X、または DNS のいずれかを指定する必要があります。

16 までのルータを明示的に MLS-RP として組み込むことができます。

IP サブネット アドレスを指定するには、次の構文を使用します。

- *ip-subnet-addr* または *ipv6-subnet-addr* : サブネットアドレスのショートフォーマット。IP または IPv6 アドレス YY.YY.YY.00 の末尾の 10 進数 00 は、IP または IPv6 サブネットアドレスの境界を指定します。たとえば、172.22.36.00 は 24 ビット サブネットアドレス (サブネットマスク 172.22.36.00/255.255.255.0) を示し、173.24.00.00 は 16 ビット サブネットアドレス (サブネットマスク 173.24.00.00/255.255.0.0) を示します。ただし、このフォーマットで識別できるのは、8、16、または 24 ビットのサブネットアドレスだけです。
- *ip-addr/subnet-mask* または *ipv6-addr/subnet-mask* : サブネットアドレスのロングフォーマット。たとえば、172.22.252.00/255.255.252.00 は、22 ビット サブネットアドレスを示します。このフォーマットは、任意のビット数のサブネットアドレスを指定できます。より柔軟に指定するには、*ip-addr* または *ipv6-addr* に 172.22.253.1/255.255.252.00 のようなフルホストアドレスを指定します。

- *ip-addr/maskbits* または *ipv6-addr/maskbits* : サブネット アドレスの簡易ロング フォーマット。マスク ビットは、ネットワーク マスクのビット数を指定します。たとえば、172.22.252.00/22 は、22 ビット サブネット アドレスを示します。*ip-addr* または *ipv6-addr* は 193.22.253.1/22 のようなフル ホスト アドレスであり、*ip-subnet-addr* または *ipv6-subnet-addr* と同じサブネット アドレスを含みます。

all キーワードを使用しない場合、少なくとも他の 4 つのキーワード (**source**、**destination**、**flow**、または **interface**) の中の 1 つとその引数を指定する必要があります。

destination または **source port-num** のキーワードおよび引数の値を 0 にすると、すべてのエントリがクリアされます。指定されていないオプションはワイルドカードとして扱われ、エントリがすべてクリアされます。

例

次に、特定のモジュール (2) に関連付けられ、特定の宛先 IP アドレス (173.11.50.89) を持つすべてのエントリをクリアする例を示します。

```
Router# clear mls netflow ip destination 173.11.50.89 module 2
Router#
```

次に、ソフトウェアがインストールされた IPv6 エントリをクリアする例を示します。

```
Router# clear mls netflow ipv6
Router#
```

次に、統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear mls netflow dynamic
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mls netflow ip	ハードウェア NetFlow IP に関する情報を表示します。
show mls netflow ipv6	ハードウェア NetFlow IPv6 設定に関する情報を表示します。

clear mls qos

MLS の集約 QoS 統計情報をクリアするには、**clear mls qos** コマンドを使用します。

```
clear mls qos [{ip | ipx | mac | mpls | ipv6 | arp}] [{interface interface-number} |
{null interface-number} | {port-channel number} | {vlan vlan-id}]]
```

シンタックスの説明

ip	(任意) MLS の IP 集約 QoS 統計情報をクリアします。
ipx	(任意) MLS の IPX 集約 QoS 統計情報をクリアします。
mac	(任意) MLS の MAC 集約 QoS 統計情報をクリアします。
mpls	(任意) MLS の MPLS 集約 QoS 統計情報をクリアします。
ipv6	(任意) MLS の IPv6 集約 QoS 統計情報をクリアします。
arp	(任意) MLS の ARP 集約 QoS 統計情報をクリアします。
<i>interface</i>	(任意) インターフェイス タイプ。有効値は ethernet 、 fastethernet 、 gigabitethernet 、および tengigabitethernet です。その他の有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>interface-number</i>	(任意) モジュールおよびポート番号。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
null <i>interface-number</i>	(任意) マル インターフェイスを指定します。有効値は 0 です。
port-channel <i>number</i>	(任意) チャネル インターフェイスを指定します。有効値は 1 ~ 256 の範囲の最大 64 個の値です。
vlan <i>vlan-id</i>	(任意) VLAN ID を指定します。有効値は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

clear mls qos コマンドを入力した場合、ポリシングのトークン バケット カウンタが影響を受け、ポリシングされるはずのトラフィックが転送される可能性があります。

interface-number 引数はモジュールおよびポート番号を指定します。*interface-number* の有効値は、指定されたインターフェイス タイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

引数なしで **clear mls qos** コマンドを入力すると、すべてのプロトコルでグローバルおよびインターフェイス単位の集約 QoS カウンタがクリアされます。

インターフェイス タイプを入力しない場合、すべてのインターフェイスのプロトコル集約 QoS カウンタがクリアされます。

例

次に、すべてのプロトコルでグローバルおよびインターフェイス単位の集約 QoS カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear mls qos  
Router#
```

次に、すべてのインターフェイスで特定プロトコルの集約 QoS カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear mls qos ip  
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mls qos	MLS QoS 情報を表示します。

clear mls statistics

MLS 統計情報のカウンタをリセットするには、**clear mls statistics** コマンドを使用します。

clear mls statistics [module num]

シンタックスの説明	module num (任意) モジュール番号を指定します。
------------------	---------------------------------------

デフォルト	このコマンドにはデフォルト設定がありません。
--------------	------------------------

コマンドモード	特権 EXEC
----------------	---------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン	clear mls stats コマンドが、このコマンドに置き換えられました。
-------------------	--

例	次に、すべてのモジュールの MLS 統計情報カウンタをリセットする例を示します。 <pre>Router# clear mls statistics Router#</pre> 次に、特定のモジュールの MLS 統計情報カウンタをリセットする例を示します。 <pre>Router# clear mls statistics module 5 Router#</pre>
----------	---

関連コマンド	コマンド	説明
	show mls statistics	IP、IPX、マルチキャスト、レイヤ 2 プロトコル、および QoS の MLS 統計情報を表示します。

clear mls stats

MLS の統計情報をクリアするには、**clear mls stats** コマンドを使用します。

clear mls stats

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、すべてのモジュールの MLS 統計情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear mls stats  
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear mls statistics	MLS 統計カウンタをリセットします。

clear pagp

ポート チャネル情報をクリアするには、**clear pagp** コマンドを使用します。

clear pagp {*group-number* | *counters*}

シンタックスの説明

<i>group-number</i>	チャンネル グループ番号。有効値は 1 ～ 256 の範囲の最大 64 個の値です。
<i>counters</i>	トラフィック フィルタをクリアします。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例

次に、特定グループのポート チャネル情報をクリアする例を示します。

```
Router# clear pagp 324
Router#
```

次に、ポート チャネル トラフィック フィルタをクリアする例を示します。

```
Router# clear pagp counters
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show pagp	ポート チャネル情報を表示します。

clear platform netint

プラットフォームの割り込みスロットリング カウンタをクリアするには、**clear platform netint** コマンドを使用します。

clear platform netint

シンタックスの説明 このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

例 次に、プラットフォームの割り込みスロットリング カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear platform netint  
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show platform netint	プラットフォームのネットワーク割り込み情報を表示します。

clear platform pisa ixp counters

Supervisor Engine 32 PISA 固有カウンタをクリアするには、**clear platform pisa ixp** コマンドを使用します。

clear platform pisa ixp counters *counter*

シンタックスの説明

<i>counter</i>	カウンタ情報。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
----------------	--

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZYA	このコマンドのサポートが追加されました。
12.2(18)ZYA1	このコマンドのサポートは、 clear platform pisa np counters コマンドの使用が推奨されているため廃止されました。

使用上のガイドライン

counter 引数の有効値は次のとおりです。

- **all counters** : Supervisor Engine 32 PISA 固有カウンタをすべてクリアします。
- **fpm counters** : Flexible Packet Matching (FPM; フレキシブル パケット マッチング) カウンタをクリアします。
- **me num counters** : マイクロエンジン情報をクリアします。有効値は 0 ~ 15 です。
- **mqc counters** : モジュラ サービス品質 (QoS) CLI カウンタをクリアします。
- **mtacl counters** : MTrie ACL カウンタをクリアします。
- **nbar counters** : Network-Based Application Recognition (NBAR) カウンタをクリアします。
- **rx counters** : 受信エンジン カウンタをクリアします。
- **tx counters** : 送信エンジン カウンタをクリアします。
- **urlf counters** : URL フィルタリング カウンタをクリアします。
- **vfr counters** : Virtual Fragmentation and Reassembly (VFR) カウンタをクリアします。

例

次に、プラットフォームのフレキシブルパケットマッチング (FPM) カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear platform pisa ixp counters fpm
FPM Statistics cleared
```

```
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show platform pisa np	Supervisor Engine 32 PISA 固有情報を表示します。

clear platform pisa np counters

プラットフォームの Supervisor Engine 32 PISA 固有カウンタをクリアするには、**clear platform pisa np counters** コマンドを使用します。

clear platform pisa np counter counters

シンタックスの説明

<i>counter</i>	カウンタ情報。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
----------------	--

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZYA1	このコマンドのサポートが、 clear platform pisa ixp counters コマンドを入れ替えるために導入されました。

使用上のガイドライン

counter 引数の有効値は次のとおりです。

- **all** : すべての Supervisor Engine 32 PISA 固有カウンタをクリアします。
- **fpm** : フレキシブル パケット マッチング (FPM) カウンタをクリアします。
- **me num** : マイクロエンジン情報をクリアします。有効値は 0 ~ 15 です。
- **mqc** : サービス品質 (QoS) CLI カウンタをクリアします。
- **mtacl** : MTrie ACL カウンタをクリアします。
- **nbar** : Network-Based Application Recognition (NBAR) カウンタをクリアします。
- **rx** : 受信エンジン カウンタをクリアします。
- **tagging** : プロトコル タギング カウンタをクリアします。
- **tx** : 送信エンジンカウンタ をクリアします。
- **urlf** : URL フィルタリング カウンタをクリアします。
- **vfr** : Virtual Fragmentation and Reassembly (VFR) カウンタをクリアします。

例

次に、プラットフォームのすべての Supervisor Engine 32 PISA 固有カウンタをクリアする例を示します。

```
Router# clear platform pisa np all counters
RX Statistics cleared for ME: 0
TX Statistics cleared for ME: 1
NBAR Statistics cleared
URLF Statistics cleared
MQC Statistics cleared
```

```
ACL Statistics cleared  
FPM Statistics cleared  
VFR Statistics cleared  
Protocol Tagging Statistics cleared  
Stubs Statistics cleared for ME: 2 to 15
```

```
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show platform pisa np	Supervisor Engine 32 PISA 固有情報を表示します。

clear port-security

MAC アドレス テーブルからセキュア MAC アドレスおよびスティッキ MAC アドレスを削除するには、**clear port-security** コマンドを使用します。

```
clear port-security dynamic [{address mac-addr} | {interface interface-id}] [vlan
vlan-id]
```

シンタックスの説明

address mac-addr	(任意) 指定されたセキュア MAC アドレスまたはスティッキ MAC アドレスを削除します。
interface interface-id	(任意) 指定された物理ポートまたはポート チャネル上のすべてのセキュア MAC アドレスおよびスティッキ MAC アドレスを削除します。
vlan vlan-id	(任意) 指定された VLAN から特定のセキュア MAC アドレスまたはスティッキ MAC アドレスを削除します。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをサポートするのは、ネゴシエートされたトランクだけです。

キーワードまたは引数を指定せずに **clear port-security** コマンドを入力した場合、MAC アドレス テーブルからすべてのセキュア MAC アドレスおよびスティッキ MAC アドレスが削除されます。

clear port-security dynamic interface interface-id コマンドを入力すると、インターフェイス上のすべてのセキュア MAC アドレスおよびスティッキ MAC アドレスが MAC アドレス テーブルから削除されます。

この情報が削除されたことを確認する場合は、**show port-security** コマンドを入力します。

例

次に、MAC アドレス テーブルから特定のセキュア MAC アドレスを削除する例を示します。

```
Router# clear port-security dynamic address 0008.0070.0007
Router#
```

次に、特定のインターフェイスで学習されたすべてのセキュア MAC アドレスおよびスティッキ MAC アドレスを削除する例を示します。

```
Router# clear port-security dynamic interface gigabitethernet0/1
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-security	ポート セキュリティ設定に関する情報を表示します。
switchport port-security mac-address	セキュア MAC アドレスのリストに MAC アドレスを追加します。

clear spanning-tree detected-protocol

プロトコル マイグレーションを再開するには、**clear spanning-tree detected-protocol** コマンドを使用します。

clear spanning-tree detected-protocol [*interface interface interface-num*]

シンタックスの説明

interface <i>interface</i>	(任意) インターフェイスのタイプと番号を指定します。タイプの有効値は ethernet 、 fastethernet 、 gigabitethernet 、 tengigabitethernet 、 port-channel 、および vlan です。その他の有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
interface-num	モジュールおよびポート番号。 port-channel および vlan の有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンド モード

EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

RSTP および MST には他のリージョンまたは別のバージョンの IEEE スパニング ツリーと正しく対話するための互換メカニズムが組み込まれています。たとえば、レガシーブリッジに接続した RSTP ブリッジは、ポートのいずれかで 802.1D BPDU を送信できます。MST ブリッジがレガシー BPDU または別のリージョンに関連付けられた MST BPDU を受信すると、ポートがリージョンの境界にあることを検出します。このようなメカニズムは必ずしも最も効率的なモードへ復帰できるとはかぎりません。たとえば、レガシー 802.1D に指定された RSTP ブリッジは、レガシーブリッジがリンクから取り外されたあとも 802.1D モードのままです。同様に、MST ポートは接続しているブリッジが同じリージョンに加入したあとも、自身を境界ポートと見なします。強制的にネイバと再ネゴシエーションさせる場合は、**clear spanning-tree detected-protocol** コマンドを入力します。

interface-number の有効値は、指定したインターフェイス タイプおよび使用されているシャーシおよびモジュールによって決まります。たとえば、13 スロット シャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネット モジュールが搭載されている場合に、ギガビット イーサネット インターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 2 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

port-channel number の有効値は、1 ~ 256 の範囲の最大 64 個の値です。

引数なしで **clear spanning-tree detected-protocol** コマンドを入力する場合、コマンドは Catalyst 6500 シリーズ スイッチのすべてのポートに適用されます。

例 次に、特定のインターフェイスでプロトコルマイグレーションを再開させる例を示します。

```
Router# clear spanning-tree detected-protocol fa1/1  
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show spanning-tree mst	MST プロトコルに関する情報を表示します。

clear top counters interface report

TopN レポートをクリアするには、**clear top counters interface report** コマンドを使用します。

clear top counters interface report *number*

シンタックスの説明 *number* (任意) 表示されるポートの数。有効値は、1 ~ 5000 の物理ポートです。

デフォルト このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード EXEC

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、イーサネット、ファストイーサネット、ギガビットイーサネット、および10ギガビットイーサネットのポートだけでサポートされます。OSM 上の LAN ポートもサポートされます。

clear top interface report コマンドにより、完了したすべてのレポートがクリアされます。保留中の TopN レポートは削除されません。レポート番号が指定された場合、TopN タスクはステータスに関係なくクリアされます。

例 次に、すべての TopN タスクをクリアする例を示します。

```
Router# clear top counters interface report
04:00:06: %TOPN_COUNTERS-5-DELETED: TopN report 1 deleted by the console
04:00:06: %TOPN_COUNTERS-5-DELETED: TopN report 2 deleted by the console
04:00:06: %TOPN_COUNTERS-5-DELETED: TopN report 3 deleted by the console
04:00:06: %TOPN_COUNTERS-5-DELETED: TopN report 4 deleted by the console1/24/
Router#
```

次に、保留中の TopN タスクをクリアしようとした場合の出力例を示します。

```
Router# clear top counters interface report 4
04:52:12: %TOPN_COUNTERS-5-KILLED: TopN report 4 killed by the sattili onvty0 (9.10.69.9)
Router#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	collect top counters interface	TopN プロセスおよび特定の TopN レポートを表示します。
	show top counters interface report	TopN レポートおよび情報を表示します。

clear vlan counters

ソフトウェア キャッシュ カウンタの値をクリアし、指定された VLAN または既存のすべての VLAN で再び 0 から開始するには、**clear vlan counters** コマンドを使用します。

clear vlan [*vlan-id*] counters

シンタックスの説明

<i>vlan-id</i>	(任意) VLAN ID。有効値については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
----------------	--

デフォルト

このコマンドにはデフォルト設定がありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

vlan-id を指定しない場合、既存のすべての VLAN に対するソフトウェア キャッシュ カウンタの値がクリアされます。

例

次に、指定した VLAN に対するソフトウェア キャッシュ カウンタの値をクリアする例を示します。

```
Router# clear vlan 10 counters
Clear "show vlan" counters on this vlan [confirm]y
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vlan counters	ソフトウェア キャッシュ カウンタの値を表示します。

clock

1000BASE-T トランシーバにポートクロッキングモードを設定するには、**clock** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock {auto | active [prefer] | passive [prefer]}

no clock

シンタックスの説明

auto	自動クロック コンフィギュレーションをイネーブルにします。
active	アクティブ動作をイネーブルにします。
prefer	(任意) 指定されたモードをリンクの遠端とネゴシエートします。
passive	パッシブ動作をイネーブルにします。

デフォルト

auto

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、1000BASE-T トランシーバだけでサポートされています。

リンクの近端のクロックモードが遠端のクロックモードと一致しない場合、ラインプロトコルは動作しません。

自動ネゴシエーション中に、アクティブおよびパッシブクロックステータスが決定されてから、伝送リンクが確立されます。

clock コマンドは、次のコンフィギュレーションをサポートしています。

- **auto** : リンクの遠端と自動ネゴシエートしますが、アクティブクロックスイッチが優先されます。
- **active** : ローカルクロックを使用して、トランスミッタ動作のタイミングを決定します。
- **passive** : クロックを受信信号から回復し、回復済みクロックを使用して、トランスミッタ動作のタイミングを決定します。
- **active prefer** : リンクの遠端と自動ネゴシエートしますが、アクティブクロックスイッチが優先されます。
- **passive prefer** : リンクの遠端と自動ネゴシエートしますが、パッシブクロックスイッチが優先されます。

現在のクロックモードを表示するには、**show running-config interface** コマンドを使用します。

ファームウェアによりネゴシエートされたクロックモードを表示するには、**show interfaces** コマンドを入力します。

例

次に、アクティブクロックの動作をイネーブルにする例を示します。

```
Router(config-if)# clock active
Router(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interfaces	特定のインターフェイスが認識するトラフィックを表示します。
show running-config interface	モジュールまたはレイヤ 2 VLAN のステータスおよび設定を表示します。

collect top counters interface

TopN プロセスおよび特定の TopN レポートを表示するには、**collect top counters interface** コマンドを使用します。

collect top [*number*] **counters interface** *interface-type* [**interval** *seconds*] [**sort-by** *sort-by-value*]

シンタックスの説明

<i>number</i>	(任意) 表示されるポートの数。有効値は、1 ~ 5000 の物理ポートです。
<i>interface-type</i>	TopN 要求で使用されるポートタイプ。有効値は、 all 、 ethernet 、 fastethernet 、 gigabitethernet 、 tengigabitethernet 、 layer-2 vlan-num 、および layer-3 です。
interval <i>seconds</i>	(任意) 統計情報を収集するインターバルを指定します。有効値は、0 ~ 999 秒です。
sort-by <i>sort-by-value</i>	(任意) レポートを生成するポート統計情報を指定します。有効値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • broadcast : 送受信ブロードキャスト パケットに基づいて、レポートをソートします。 • bytes : 送受信バイトに基づいて、レポートをソートします。 • errors : 受信エラーに基づいて、レポートをソートします。 • multicast : 送受信マルチキャスト パケットに基づいて、レポートをソートします。 • overflow : 送信オーバーフロー エラーに基づいて、レポートをソートします。 • packets : 送受信パケットに基づいて、レポートをソートします。 • utilization : ポートの利用率に基づいて、レポートをソートします。

デフォルト

デフォルト設定は次のとおりです。

- *number* は、**20** の物理ポートです。
- *sort-by-value* は、**util** です。
- *seconds* は、**30** 秒です。
- *interface-type* は、**all** です。

コマンドモード

EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、イーサネット、ファストイーサネット、ギガビットイーサネットおよび 10 ギガビットイーサネットポートだけでサポートされます。OSM 上の LAN ポートもサポートされます。

0 秒のインターバルを指定すると、TopN レポートは絶対カウンタ値に基づいて生成されます。特定のインターバルで計算されるのは利用率だけであるため、ソート基準が **utilization** の場合は、**interval seconds** キーワードおよび引数は指定できません。

layer-2 vlan-num を指定した場合、有効値は 1 ~ 4094 で、レイヤ 2 インターフェイス数を示します。

レポートを表示できるのは、完了済みステータスを伴う TopN タスクだけです。不完全（保留中）であるレポートを表示しようとする、該当するメッセージが表示されます。

TopN ユーティリティは、*seconds* インターバルで次の物理ポート単位のポート利用率データを収集します。

- 送受信バイトの総数
- 送受信パケットの総数
- 送受信ブロードキャストパケットの総数
- 送受信マルチキャストパケットの総数
- エラーの総数（Cyclic Redundancy Check (CRC; 巡回冗長検査) などのイーサネットポート、サイズ不足パケット (+Runt)、サイズ超過パケット、フラグメンテーション、およびジャバー)
- アウトロストパケットを含むバッファオーバーフローエラーの総数（バッファが満杯であることが原因の送信エラーおよび dmaTxOverflow、dmaTxFull のイーサネットポートなど）

情報が収集されると、ポートは *sort-by-value* 引数に従ってソートされ、上から *number* 個のポートが表示されます。

TopN レポートの準備ができると、TopN レポートが使用できるという Syslog メッセージが表示されます。レポートを表示する場合は、**show top interface report** コマンドを使用します。**clear top interface report** コマンドを入力してレポートをクリアするまで、何度でも TopN レポートを表示できます。

レポートをクリアするには、**clear top interface report** コマンドを使用します。

例

次に、送受信ブロードキャストパケットに基づいて TopN レポートをソートする例を示します。

```
Router# collect top 40 counters interface all sort-by broadcast
Router#
```

次に、送受信ブロードキャストパケットに基づいて TopN レポートをソートして、TopN サンプリングインターバルを指定する例を示します。

```
Router# collect top 40 counters interface all sort-by broadcast interval 500
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear top counters interface report	TopN レポートをクリアします。
show top counters interface report	TopN レポートおよび情報を表示します。

control-plane

ユーザが、装置のコントロールプレーンに関連付けられた引数またはパラメータ（サービス ポリシー など）の関連付けおよび変更が許可されるコントロールプレーン コンフィギュレーション モードを開始するには、**control-plane** コマンドを使用します。

control-plane

シンタックスの説明

このコマンドには、キーワードまたは引数はありません。

デフォルト

コントロールプレーンのサービス ポリシーは、定義されていません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

すべてのクラスにポリシー アクションを設定する必要があります。すべてのクラスにポリシー アクションを設定しなかった場合、トラフィックはポリシー アクションがないクラスをスキップし、後続クラスとマッチングします。

control-plane コマンドを入力すると、ルート プロセッサの集約コントロールプレーン サービスを定義できます。たとえば、コントロールプレーンとサービス ポリシーを関連付けて、コントロールプレーン宛のすべてのトラフィックをポリシングできます。

例

次に、信頼できるホストを送信元アドレス 10.1.1.1 および 10.1.1.2 に設定して、Telnet パケットをコントロールプレーンに制限なく転送し、残りのすべての Telnet パケットには指定速度でのポリシングを許可する例を示します。

```
Router(config)# access-list 140 deny tcp host 10.1.1.1 any eq telnet
! Allow 10.1.1.2 trusted host traffic.
Router(config)# access-list 140 deny tcp host 10.1.1.2 any eq telnet
! Rate limit all other Telnet traffic.
Router(config)# access-list 140 permit tcp any any eq telnet
! Define class-map "telnet-class."
Router(config)# class-map telnet-class
Router(config-cmap)# match access-group 140
Router(config-cmap)# exit
Router(config)# policy-map control-plane
Router(config-pmap)# class telnet-class
```

```
Router(config-pmap-c)# police 80000 conform transmit exceed drop
Router(config-pmap-c)# exit
Router(config-pmap)# exit
! Define aggregate control plane service for the active Route Processor.
Router(config)# control-plane
Router(config-cp)# service-policy input control-plane-policy
Router(config-cp)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
class (policy-map)	作成または変更を行うポリシーがあるクラスの名前を指定するか、ポリシーを設定する前にデフォルトクラス（一般には class-default クラス）を指定します。
class-map	QoS クラス マップを設定するための QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードにアクセスします。
drop	特定のクラスに属すパケットを破棄するようにトラフィック クラスを設定します。
match access-group	指定された ACL を基に、クラス マップの一致基準を設定します。
policy-map	QoS ポリシー マップを設定するための QoS ポリシー マップ コンフィギュレーション モードにアクセスします。
service-policy (control-plane)	集約コントロール プレーン サービスのコントロール プレーンにポリシー マップを付加します。
show policy-map control-plane	コントロール プレーンのポリシー マップの 1 つのクラスまたはすべてのクラスの設定を表示します。

copy /noverify

現在のコピー操作の自動イメージ確認をディセーブルにするには、**copy /noverify** コマンドを使用します。

copy /noverify source-url destination-url

シンタックスの説明

<i>source-url</i>	コピー元のファイルまたはディレクトリの場所を示す URL またはエイリアス。詳細については「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>destination-url</i>	ファイルまたはディレクトリのコピー先を示す URL またはエイリアス。詳細については「使用上のガイドライン」を参照してください。

デフォルト

コピー操作が完了すると自動的に確認が行われます。

コマンドモード

EXEC

コマンドの履歴

リリース	変更内容
12.2(18)ZY	このコマンドのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

コピー元およびコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって変わります。特定のファイルのエイリアス キーワードまたはファイル システム タイプのエイリアス キーワード（特定のタイプ内のファイルではない）のどちらを使用してもかまいません。



ワンポイントアドバイス

エイリアスは入力量を少なくするために使用します。たとえば、**copy system:r nvram:s** (**copy system:running-config nvram:startup-config** コマンドの省略形) と入力するよりも **copy run start** (**copy running-config startup-config** コマンドの省略形) の方が簡単です。エイリアスを使用すると、以前のバージョンの Cisco IOS ソフトウェアで使用されていた共通コマンドの一部を引き続き使用できます。

表 2-3 に、URL のキーワード ショートカットを 2 つ示します。

表 2-3 URL の共通キーワード エイリアス

キーワード	コピー元またはコピー先
running-config	(任意) system:running-config の URL のエイリアスを指定します。このキーワードは、 more および show file コマンド構文では動作しません。
startup-config	(任意) nvram:startup-config の URL のエイリアスを指定します。 nvram:startup-config キーワードは、初期化（起動）中に使用されるコンフィギュレーション ファイルを示します。このファイルは NVRAM に保存されます。このキーワードは、 more および show file EXEC コマンド構文では動作しません。

表 2-4 から表 2-6 に、ファイル システム タイプ別のエイリアスを紹介します。エイリアスを指定しない場合、システムは現在のディレクトリ内のファイルを検索します。

表 2-4 に、特別な (opaque) ファイル システムの URL プレフィクス エイリアスを、表 2-5 にネットワーク ファイル システムの URL プレフィクス エイリアスを、表 2-6 にローカルで書き込み可能なストレージ ファイル システムの URL プレフィクス エイリアスを示します。

表 2-4 特別なファイル システムの URL プレフィクス エイリアス

エイリアス	コピー元またはコピー先
flh:	フラッシュのロード ヘルパー ログ ファイルのコピー元 URL
nvr:	ルータの NVRAM。NVRAM から、または NVRAM ヘスタートアップ コンフィギュレーションをコピーできます。また、プライベート コンフィギュレーション ファイルのサイズの表示もできます。
null:	ヌルのコピー先またはファイル。リモート ファイルをヌルへコピーして、サイズを判別できます。
system:	システム メモリのコピー元またはコピー先 URL (実行コンフィギュレーションを含む)
xmodem:	Xmodem プロトコルを使用するネットワーク装置からのファイルのコピー元またはコピー先
ymodem:	Ymodem プロトコルを使用するネットワーク装置からのファイルのコピー元またはコピー先

表 2-5 ネットワーク ファイル システムの URL プレフィクス エイリアス

エイリアス	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先 URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp:[[//username [:password]@]location]/directory]/filename
rcp:	rcp ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先 URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 rcp:[[//username@]location]/directory]/filename
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先 URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp:[[//location]/directory]/filename

表 2-6 ローカルで書き込み可能なストレージ ファイル システムの URL プレフィクス エイリアス

エイリアス	コピー元またはコピー先
bootflash:	ブート フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先 URL
disk0: および disk1:	回転メディアのコピー元またはコピー先 URL
flash:	フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先 URL。このエイリアスはすべてのプラットフォームで使用できます。 フラッシュ装置のないプラットフォームの場合、 flash: のエイリアスは slot0: に設定されるため、すべてのプラットフォームのメイン フラッシュ メモリのストレージ エリアを指定できます。

表 2-6 ローカルで書き込み可能なストレージ ファイル システムの URL プレフィクス エイリアス (続)

エイリアス	コピー元またはコピー先
slavebootflash:	High System Availability (HSA; ハイ システム アベイラビリティ) に設定された装置のスレーブ RSP カード上にある内部フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先 URL
slaveram:	HSA に設定された装置のスレーブ RSP カード上の NVRAM
slavedisk0:	HSA に設定された装置のスレーブ RSP カード上にある最初の PCMCIA カードのコピー元またはコピー先 URL
slavedisk1:	HSA に設定された装置のスレーブ RSP カード上にある 2 番目の PCMCIA スロットのコピー元またはコピー先 URL
slaveslot0:	HSA に設定されたルータのスレーブ RSP カード上にある最初の PCMCIA カードのコピー元またはコピー先 URL (サポート対象外)
slaveslot1:	HSA に設定されたルータのスレーブ RSP カード上にある 2 番目の PCMCIA カードのコピー元またはコピー先 URL (サポート対象外)
slot0:	最初の PCMCIA フラッシュ メモリ カードのコピー元またはコピー先 URL (サポート対象外)
slot1:	2 番目の PCMCIA フラッシュ メモリ カードのコピー元またはコピー先 URL (サポート対象外)

コマンドライン上で必要なすべてのコピー元およびコピー先 URL 情報、および使用するユーザ名とパスワードを入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足している情報の入力をスイッチに指示させることができます。

情報を入力する場合は、3 つのオプション (**running-config**、**startup-config**、またはファイル システム エイリアス) のいずれか 1 つを選択します (表 2-3 ~ 表 2-6 を参照してください)。コピー元またはコピー先 URL の形式は、ファイル システムの場所によって決まります。

エイリアスの後ろにはコロンが必要です。コロンを必要としない以前のコマンドも引き続きサポートされていますが、コンテキスト ヘルプでは使用できません。

コピー処理は全体で数分かかる場合がありますが、プロトコルやネットワークによって異なります。

ftp:、**rcp:**、および **tftp:** のエイリアス構文では、ロケーションは IP アドレスまたはホスト名です。ファイル名は、ファイル転送で使用するディレクトリに対して指定します。

確認をグローバルに設定するには、**file verify auto** コマンドを使用します。

例

次に、現在のコピー操作の自動イメージ確認をディセーブルにする例を示します。

```
Router# copy /noverify tftp: sup-bootflash:
.....
[OK - 24301348 bytes]
24301348 bytes copied in 157.328 secs (154463 bytes/sec)
Router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
file verify auto	圧縮 Cisco IOS イメージチェックサムを確認します。
verify	フラッシュ メモリ ファイル システムのファイルのチェックサムを確認するか、ファイルの MD5 シグニチャを計算します。

